



令和元年 7月 1日

平成 30 年 7 月豪雨災害から 1 年を迎えるにあたり
豪雨災害調査団 公開最終報告会を開催します

広島大学は、「平成 30 年 7 月豪雨災害」発災直後の、平成 30 年 7 月 11 日に、広島大学長を団長とした「広島大学平成 30 年 7 月豪雨災害調査団」を設置し、活動を行なってきました。

7 月 6 日に豪雨災害から 1 年を迎えるにあたり、豪雨災害調査団のこれまでの活動を総括するため、最終報告会を下記のとおり開催いたします。

豪雨災害調査団では、学内の防災研究分野の専門家の力を集結して、土石流・斜面災害、水文気象・洪水・氾濫、生活インフラ被害、公衆衛生・災害医療などについて専門的見地から調査に取り組んでいます。

記

日時：令和元年 7 月 5 日（金）13:30～15:00

場所：広島大学 東千田キャンパス 未来創生センターM202 講義室
（〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号）

出席者：

藤原章正（国際協力研究科教授／副団長、生活インフラ被害班長）
土田 孝（防災・減災研究センター長／土石流・斜面災害班長）
海堀正博（総合科学研究科教授／土石流・斜面災害班）
河原能久（工学研究科教授／水文気象・洪水・氾濫班長）
大毛宏喜（病院副院長／公衆衛生・医療班長）

内容：

豪雨災害調査団 1 年の活動まとめ
調査研究報告（各班）
質疑応答

【お問い合わせ先】

社会産学連携室
社会産学連携グループ 三戸
TEL:082-424-5871

発信枚数：A4版 4枚（本票含む）

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学財務・総務室広報部広報グループ 行

平成30年7月豪雨災害から1年を迎えるにあたり
豪雨災害調査団 公開最終報告会を開催します

記

日時：令和元年7月5日(金) 13:30~15:00

場所：広島大学 東千田キャンパス 未来創生センターM202 講義室
(〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目1番89号)

ご出席

ご欠席

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____ (計 名)

電話番号 _____

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、7月4日(木)12時までにご連絡ください。



平成30年7月豪雨災害 報告書

目 次

発行にあたって

目次 1

広島大学平成30年7月豪雨災害調査団の活動概要

ー広島県を中心とした中国地域の被害状況および復旧状況の調査ー 藤原章正 3

■土石流・斜面災害班

平成30年7月豪雨による広島県の土砂災害の特徴

ー7月10日にヘリから見た崩壊・土石流等の発生状況ー 海堀正博

2018年7月の西日本豪雨による土砂災害の特徴 土田 孝

平成30年7月豪雨での広島県内の特徴的な土砂災害

ーその1：土石流による河道閉塞や巨石による被害拡大ー 橋本涼太・土田孝・森脇武夫

平成30年7月豪雨での広島県内の特徴的な土砂災害

ーその2：社会基盤施設の被災事例ー 土田孝・橋本涼太・森脇武夫

2018年7月豪雨による広島県の土砂災害の特徴(1999年6.29災害と2014年8.20災害との比較)

森脇武夫・土田 孝・橋本涼太・中井真司・加納誠二

衛星画像と数値標高モデルの統合解析に基づく土石流による崩壊土砂量の推定 三浦弘之

平成30年7月豪雨による広島県の斜面崩壊の詳細分布図

広島大学平成30年7月豪雨災害調査団(地理学グループ)(後藤秀昭・熊原康博・竹内 峻・山中 蛭
・村田 翔・岩佐佳哉・元吉梨奈子・新殿 栞・中田 高)

Geo-Disasters in Hiroshima Prefecture Caused by the West Japan Torrential Rainfall in July 2018

Ryota Hashimoto, Takashi Tsuchida*, Takeo Moriwaki, Seiji Kano

平成30年7月豪雨の土砂災害の事例に基づいた土砂災害時のニオイ発生機構に関する検討

土田 孝・土肥聖平・杉山 実・田代広行・橋本涼太

■水文気象・洪水・氾濫班

平成30年7月豪雨による広島県の河川災害調査報告

内田龍彦・河原能久・北 真人

XバンドMPレーダによる平成30年7月豪雨における線状降水帯の三次元構造

横江祐輝・北 真人・内田龍彦・河原能久

山地斜面での雨水浸透と斜面崩壊の予測

小橋力也・北 真人・内田龍彦・河原能久・梶 昭仁・宮田英樹

大規模洪水時における河岸侵食危険箇所の検出法 八木郁哉・内田龍彦・河原能久

平成 30 年 7 月豪雨時の沼田川流域における洪水流解析 清水里都季・河原能久・内田龍彦

■生活インフラ被害班

生活インフラ被害の状況－交通ネットワークの被害状況と復旧－ 藤原章正

交通ネットワーク被災時の発生・集中・内々交通量及び旅行時間の変動特性

力石 真・浦田淳司・吉野大介・藤原章正

交通量推計結果に基づく道路ネットワークの復旧方針の検討 吉野大介・小笹俊成

プローブパーソン調査を活用した災害時の行動モニタリングと交通サービス設計

平井健二・山下大輔・吉野大介・力石 真

平成 30 年 7 月豪雨時の広島～呉間の公共交通サービスの確保・向上策とその効果検証

神田佑亮・藤原章正・塚井誠人・力石 真・三村陽一

災害時の公共交通情報提供の実現－西日本豪雨の際の広島～呉間での実践を例に－

伊藤昌毅・諸星賢治・太田恒平・森山昌幸・神田佑亮・藤原章正

大規模災害発生後の交通障害とその対応に関する SNS 投稿特性に関する研究

渡邊芳樹・神田佑亮・重光裕介・藤原章正

相乗型豪雨災害に備える情報インフラの検討

中野瑛登・中野紗希・松本拓樹・中根大輔・山本 航・塚井誠人

豪雨災害後の通学交通需要に関する臨時バス運行状況調査とオンライン配信

菅原優志・塚井誠人

自動車燃料流通の被害状況 布施正暁・野口寛貴

■公衆衛生・医療班

医療・公衆衛生対応と課題－今後の災害対応で求められるポイント－

大毛宏喜・北野弘之・田中純子・田妻 進・津賀一弘・二川浩樹・山下英尚・三上幸夫・岡本泰昌・木村浩彰・板井純治・加古まゆみ